

## 兼高かおる



引用写真

先日、TVニュースで「旅行家の兼高かおるさん亡くなる」という訃報が流れていました。90歳。晩年は、都内の高齢者施設だったそうです。私がまだ実家にいたころ、白黒テレビで「兼高かおる世界の旅」という番組を何回か見ていました。現役時代には、世界の150カ国を旅し、自ら「民間親善大使」と称していたようです。単なる、旅行家ではなく、カメラマン、ジャーナリスト、ナレーターなども同時にこなしていたようだから、すごい女性です。その時代の写真を見ると、鼻筋の通った所謂、「美人」と思いました。それもその筈、ウィキペディア（電子辞書）を見ると、父親がインド人とあります。また、「ロサンゼルス市立大学」卒とあり、英語（外国語）も堪能だろうから、「職業旅行家」の素質は十分だろう。生涯、独身だったそうで、彼女くらいになると、「結婚」という凡人の持つ「夢？」は、あまり価値を持たなかったのかもしれない。

私が「バックパッカー」のまねごとを始めた背景に彼女が直接影響していたとは思えないが、その時のイメージが何か残っていたのかもしれない。むしろ、年代的に「小田実」の「何でも見てやろう」の方に惹かれた感じがする。彼が東大生のころ、フルブライトの留学生として渡米。一年間の米国滞在の後、「一日1ドル」という目標で、ヨーロッパから中東にかけて貧乏旅行した紀行文だ。

旅行目的がそれぞれ違うのだから、その内容も全く別物になっている。彼女の場合は、「映像による世界の日本への紹介」だろうが、小田氏の場合は、行った先々での一般住民の個人的洞察と感想だろうから。

残念なことに、小田氏は2007年に胃癌により75歳で亡くなっている。1967年の個人の「海外旅行解禁」以来、世界は明らかに狭くなっていると思う。